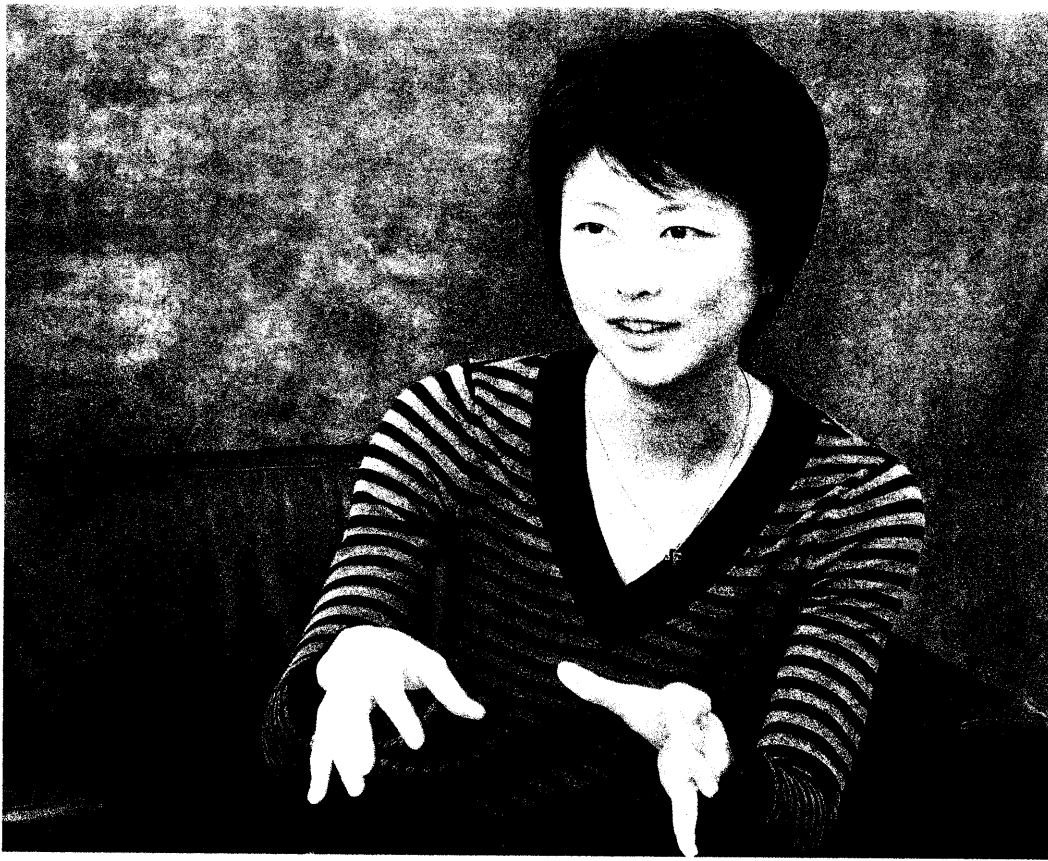


メディアが伝えない事実を
この目と体で知りたい



第七回 開高健ノンフィクション賞 受賞者

中村 安希さん

なかむら・あき ●1979年京都府生まれ。2003年カリフォルニア大学アーバイン校舞台芸術学部卒業。日米における3年間の社会人生活を経て、06年ユーラシア・アフリカ大陸へ旅行。各地の生活に根差した“小さな声”を求めて47カ国を巡る。08年帰国。国内外にて写真展、講演会を行う傍ら、世界各地の生活、食料、衛生環境取材している。著書に第七回開高健ノンフィクション賞を受賞した『インバラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日』（集英社）がある。海外情報ブログ「安希のレポート」<http://asiapacific.blog79.fc2.com/>

A

アメリカで舞台芸術を学びたい。自分で何かを表現する仕事を目指していた中村さんは、高校を卒業するとすぐに日本を発っていた。充実した大學生を送り、無事卒業はしたが、学業の半ばで体験した2001年9月11日のアメリカ同時多発テロが、中村さんの心の中にいくつもの違和感を引き起こしたようだ。

「本当に衝撃的な事件で、米国民はショックのあまり心を閉じてしまいました。そして自国民以外の人々を疎んじる気持ちが高まりましたね。外国人である私自身、排他主義に傾く社会の中で肩身の狭い思いもしました。」

当時はブッシュ大統領が悪の枢軸発言をして、テレビや新聞にもその言葉が飛び交い、名指された国がいかに凶暴で貧しいかが繰り返し繰り返し報道される。本当か、と私は思ったのです。どんな国にも生活を営む人々の普通の暮らしがあるはずだ。それをどうしても自分で確かめたかった」

大学卒業後3年間、仕事をし

ながら中村さんはユーラシア大陸とアフリカ大陸を強く意識するようになる。150を超える国々、50億人を超える人々を少しでも知りたい。そして、旅立ってしまったのだ、2年間も。野宿することもあり、体調を壊すこともあり、もちろん楽な旅行であるはずはないが、私たちが勝手にイメージするような危険の連続などということはない。体験した多くは、その土地で穏やかに懸命に暮らす人々の優しい営みだった。

「旅しながら、女性であることの強みに気づいたのですね。男性のように強がって王道を行くと危険なこともある。でも、女性たちの中に入っていけば、怖いことなど何もないのです。」

本当は世界中に、日本人の優しさ、あいまいさを愛してくれる人はたくさんいる。だから欧米の標準に追いつこうと肩ひじ張ることはないですよ」

何かの枠に自分たちを当てはめていこうとする考え方を、もう終わりにしたい。そう言っ

て中村さんはずがすがしい笑顔を見せた。

田中美絵=文 南條良明=写真

求人広告に関するお問い合わせ先: 広告局 案内・人材担当 ☎03-5540-7773 (受付時間: 9:30AM~5:30PM<土日曜・祝休日除く>) 朝日求人ウェブ <http://www.asahi.com/job/>

読書

『足向かぬ』国々見つめ

26歳のとき、思い立ってユーラシア・アフリカ大陸へ、単身旅立った。目的は「その地域に生きる人たちの小さな声に耳を傾けること」。47カ国をめぐる約2年後、帰国する。旅行中からブログなどにつづっていた記録をまとめて、第7回開高健ノンフィクション賞に応募、見事に栄冠を勝ち取った。

応募の動機は「高名な作家の名前がついている賞で、授賞式があつた帝国ホテルで行われるというのと、選考委員のひとり、うちの母親がテレビ番組のファンになつてい

著者に聞きたい

インパラの朝 (集英社・1575円)



中村安希さん

る茂木健一郎さんがいたってことでしょうか」と屈託がない。

その春、家電製品と家具を売り払い、東京のアパートを引払い。必要最小限の荷物をリュックに詰めて、成田からまず韓国に飛ぶ。その後はモンゴル、中国、チベット、マレーシア、ミャン

マー、インド、パキスタン…と、684日後の最終目的地ポルトガルを目指して、未知の国土、大陸を踏み越えた。

もともともものを書くための好奇心は旺盛過ぎるほど旺盛な人のようで、旅行前に社会に出ているときも「自分のやりたくない職業トップ10みたいなリストを作つて、順番にやつていったこともありました」という。普通の日本人なら、いくら興

味があつても、病気や貧困や暴力などによる身の危険のほうが先立って、ほぼ足を向けないだろう国々や地域に暮らす人々の素顔こそ「生き延びる手段を模索し、人間世界を見つめ直す」よりどころになつたのだという。

旅行を終えて思つたことは「特にイスラム圏やアフリカ諸国の実体は、日本や米国のメディアが伝えているようなものとは違つているんだつていうこと。この本の読者の方々が、これまで考えていたのとは違う世界もあるんだつて気がついてくれたらうれしいです」。

(宝田茂樹)

◇ へなかわら・あき

昭和54年、京都府生まれ、三重県育ち。米カリフォルニア大学アーバイン校舞台芸術学部卒。現在、写真展などを開きながら世界各地の生活、食糧、衛生環境を取材中。